

# 岡山県の地震

## 令和元年(2019年)8月

### 目次

○岡山県及びその周辺の地震活動（8月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概況	… 1
○地震防災メモ No.164	
「ひずみ計」とは	… 2

●「岡山県の地震」は月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」にて、地震、津波に対する防災等の知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

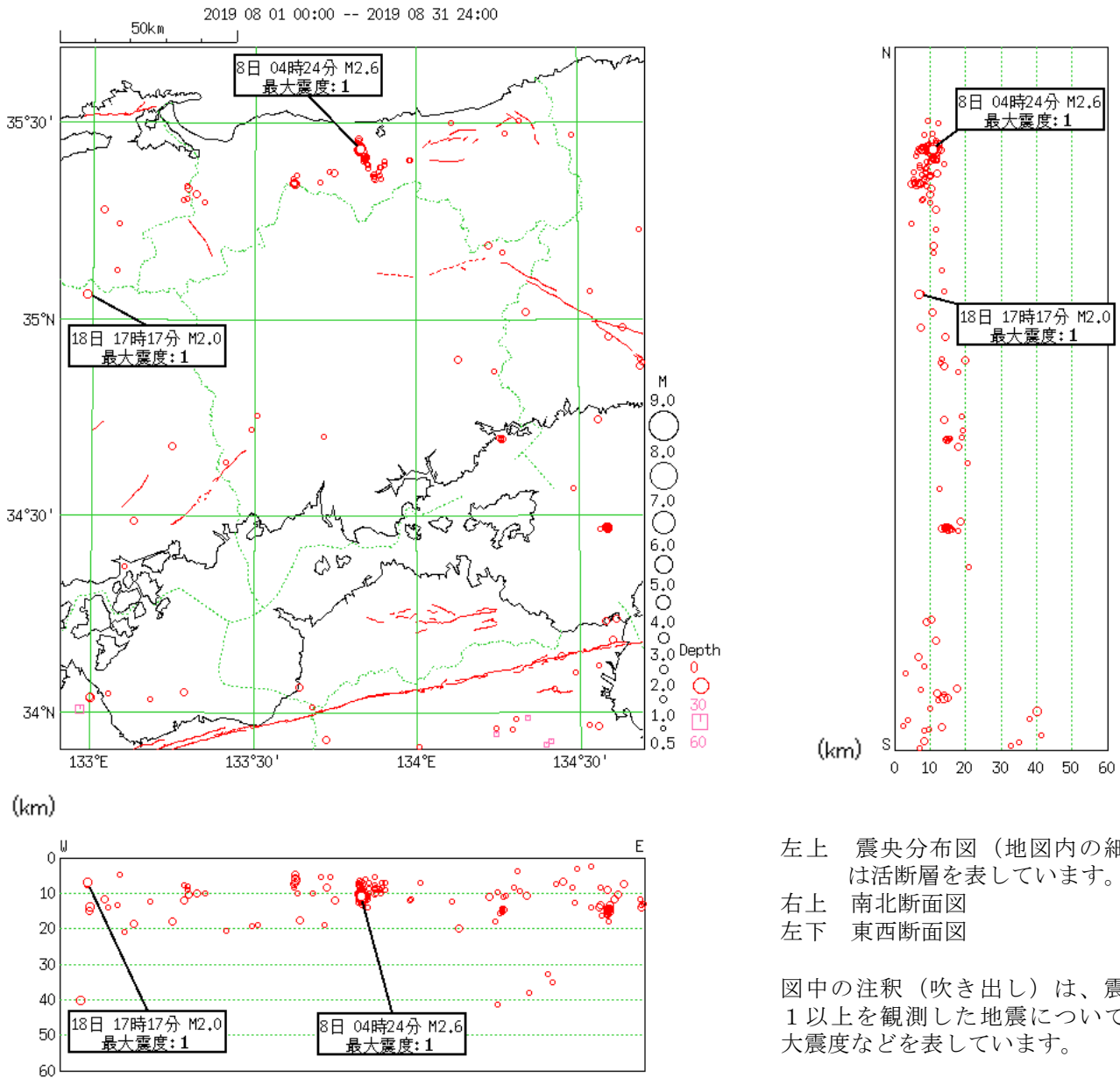
●この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

●本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

## 岡山地方気象台

# 岡山県及びその周辺の地震活動(8月)

## 震央分布図及び断面図



## 概況

### 8月の概況

- ・上図の範囲内で8月に震度 1 以上の揺れが観測された地震は2回 (前月2回) でした。
- ・岡山県で8月に震度 1 以上の揺れが観測された地震は0回 (前月1回)、そのうち震央が上図の範囲内での地震は0回、範囲外での地震は0回でした。

## 「ひずみ計」とは

気象庁では、南海トラフ沿いの地震活動を監視するため、「ひずみ計」という機器を東海地域に設置しています。これは、プレート境界のゆっくりすべり等に伴うごくわずかな岩盤の伸び縮みを捉えるためのもので、南海トラフ地震に関連する情報の発表等のために使われています。現在、気象庁が南海トラフ地震に関連する情報の発表にあたり、調査を開始する対象となる現象を判断する際に用いているひずみ計観測点は、27点です(図1)。

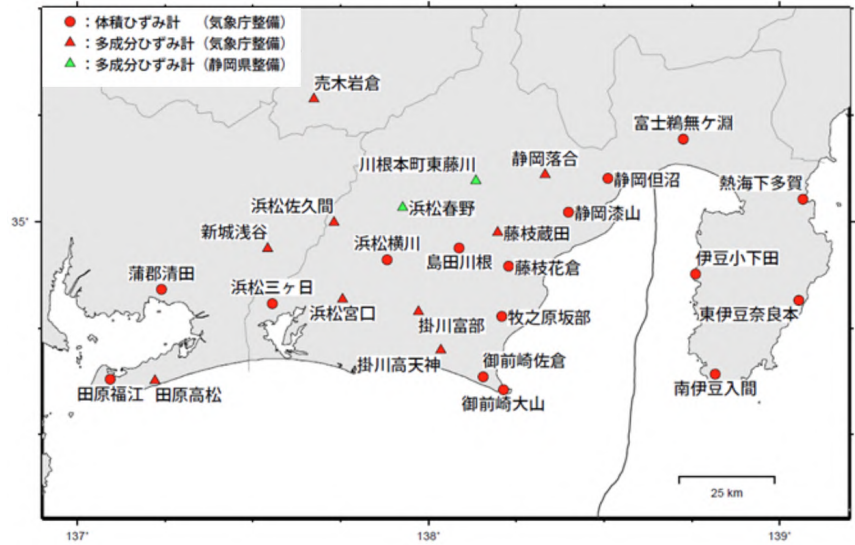


図1 情報発表に用いるひずみ計観測点

ひずみ計は、ボアホールと呼ばれる直径15センチメートル程度の縦穴を数百メートル掘削し、その底に円筒形の検出部が埋設されています。

地下の岩盤は、周囲からの力を受けて、ごくわずかですが伸び縮みします。ひずみ計は、その検出部が岩盤と同じように変形することで、岩盤の伸び縮みを検出します。その精度はきわめて高く、岩盤の伸び縮みを10億分の1の相対変化まで測定します。これは、小中学校にあるプール(長さ25メートル、幅10メートル、深さ1.5メートル程度)に水を満たし、直径1センチメートルのビー玉を入れた時に生ずる、ごくわずかな体積の変化でも検出できる精度です。

気象庁が設置しているひずみ計には、体積ひずみ計と多成分ひずみ計の2種類があります(図2)。

体積ひずみ計は、岩盤の伸び縮みによる検出部の体積の変化(体積ひずみ)を測定します。一方、多成分ひずみ計は、検出部の45度ずつ異なる4つの方位の直径の変化(線ひずみ)を測定します。体積ひずみ計ではひずみの大きさの変化を知ることができますが、多成分ひずみ計ではひずみの大きさに加えてその方向ごとの変化を知ることができます。

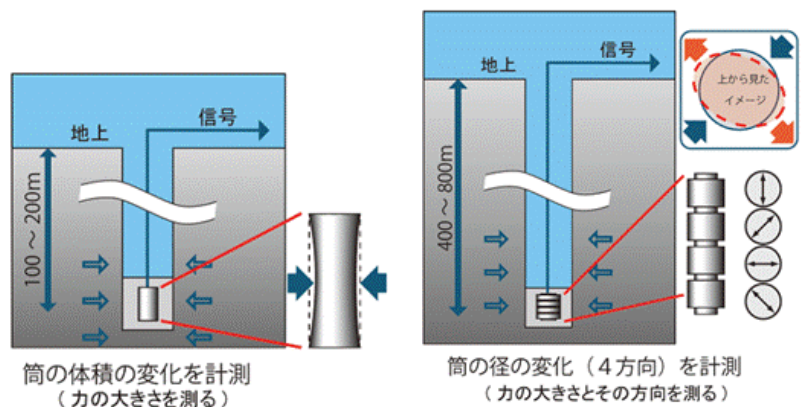


図2 体積ひずみ計(左)、多成分ひずみ計(右)

各観測点の観測データは、常時、専用回線で気象庁に集約され、前述したとおり南海トラフ地震に関連する情報の発表等のために使われています。

【出典】

「南海トラフ地震に関連する情報の種類と発表条件」(気象庁)

[https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info\\_criteria.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/info_criteria.html)